

特集：エチオピアの活動

FOCUS ON ETHIOPIA



Newsletter
April 2026

1. エチオピア事務所長メッセージ

親愛なる SAA パートナーの皆様

今月は、エチオピアを特集した4月号ニュースレターをお届けします。エチオピアは先日、内省と再生、希望を象徴するイースターを迎えました。この節目に当たり、農業コミュニティの生活水準向上に向けたSAAの使命と日々の活動の意義を振り返る機会となりました。

2026年は、これまでの歩みの振り返りの年であると同時に、未来へ向けて踏み出す重要な年です。2021～2025年戦略期間を終え、これまでの成果や学びを土台に、新たに、2026～2030年戦略計画を始動しました。農村の生計向上に向けた私たちの取り組みをさらに発展させるための大きな一歩です。

しかしながら、新年の始まりにはいくつかの課題も顕在化しました。中東情勢の悪化による燃料不足は、事業活動にも一定の影響を及ぼしました。このような状況下においても、スタッフやパートナーの皆様の協力により、私たちは農家や地域社会への支援を継続することができています。

本号では、最近の取り組みから生まれた成果や学びの一部をご紹介します。大豆生産に挑戦し成果を上げている農家の取り組みや、農業機械化サービス事業を発展させる起業家の歩みなど、現場で生まれている変化をお届けします。これらのストーリーは、具体的な成果だけでなく、SAAスタッフやパートナー、そして地域の皆様の力強い努力を表しています。

また、本号ではオートナーシップの強化、デジタル化の推進、認知度向上、文書化、知識共有、能力開発、さらには地域レベルでの種子ワークショップへの参加など、幅広い分野における最新の取り組みについてもご紹介します。

SAAの経営陣、エチオピア国内外で活動するスタッフ、日頃から支えて下さるパートナーの方々、そしてSAAとともに歩む農家の方々に心から感謝しています。本号をお読みいただいている皆様の暖かいサポートが、私たちの活動を前進させる原動力となっています。このニュースレターが、皆様にとって新たな気づきやインスピレーションにつながる内容となれば幸いです。平素からのご協力と変わらぬご支援に、心より感謝申し上げますとともに、皆様のさらなるご健勝をお祈り申し上げます。



ササカワ・アフリカ財団
エチオピア事務所長
フェンタフン・メンギスツ

※本ニュースレターは、英語版オリジナル(URL: <https://saa-safe.org/newsletter/april-2025/>)の翻訳版となります。

本号の内容

1. エチオピア事務所長メッセージ... 1

2. 現地からの声... 2

脱穀サービスから農業機械の製造者へ：フリさんの持続可能な農業ビジネスへの挑戦

エチオピアの農業革新を牽引する女性たち：大豆栽培を行うメリエマ・アバ・スラさんの成功体験

技術と学びが切り拓いた大豆栽培の道－エチオピア・デジュネさんの挑戦

若者たちがもたらす変化：市場へのアクセスの拡大と雇用創出に取り組むエチオピアの農業資材販売業者たちの挑戦

3. 活動報告... 5

SAA エチオピア、主要な農業プラットフォームとの連携強化

土壌再生から市場機会の創出へ：農家クラスターで広がる環境再生型農業

小さな農地から広がる大きな変化：エチオピア農村で進むパーマガーデニングによる生計と栄養の改善

4. ニュース／イベント... 8

アムハラ州で「RE-GAIN」プロジェクト始動：収穫後ロスの削減と穀物バリューチェーンの強化へ

AFSTA 2026 に参加、アフリカの種子システム強化とラストマイルの課題を発信

2. 現地からの声

脱穀サービスから農業機械の製造者へ：フリさんの持続可能な農業ビジネスへの挑戦



2020 年にササカワ・アフリカ財団（SAA）エチオピアが初めてフリ・ヒルポさんのストーリーを紹介した頃、彼は小規模な脱穀サービス提供事業に励みながら、倒産した前職からの生計立て直しに取り組む真っ只中でした。それから数年、現在彼は、作物の脱穀サービスを提供するだけでなく、機械の製造や改良にも取り組み、機械化サービスの普及と農村部の雇用創出にも貢献しています。

フリさんの道のりは 2002 年、オロミア州シャシェメネで、彼のお兄さんが、SAA の支援を受けて多用途脱穀機を購入したことから始まりました。兄を通じて脱穀サービ

スへの需要の高まりと事業の可能性を感じたフリさんは、将来の事業に向けた基盤に取り掛かります。その後、シャシェメネ、グジ、ボレナ、バレの各地域へとサービスを拡大していきました。

大きな転機となったのは、SAA の支援によって、現地の製造技術を用いた多用途脱穀機の改良が行われたことです。例えば、シンプルなふるいを導入したことで、風選（もみ殻やゴミを飛ばす作業）の時間が短縮され、穀物の品質が向上しました。これにより、フリさんは提供するサービスの質を高めることができました。

サービス提供者から機械の製造者へ：フリさんの新たな挑戦

2023 年、フリさんは農業機械の製造工場を立ち上げ、サービス提供にとどまらず、自ら機械の開発・改良に取り組み始めました。

これまで現場で培ってきた経験を活かし、脱穀機や穀剥き機の改良に取り組んだ結果、1 ヘクタールあたりの作業時間を 8 時間から 5 時間へ短縮することに成功しました。

これまでに 16 台の機械を改良し、94 台を製造。複数地域における農業機械化サービスへのアクセス向上に貢献しています。

成長と雇用の促進

現在、フリさんは脱穀機 8 台と殻剥き機 26 台を運営しており、年間 25,000 ドル以上の収益を上げ、68 人の若者に雇用機会を提供しています。

彼の歩みは、継続的な支援、地域に根ざしたイノベーション、そして起業家精神が、農業機械化を持続可能な農村ビジネスへと成長させる可能性を示しています。

エチオピアの農業革新を牽引する女性たち： 大豆栽培を行うメリエマさんの成功体験

ジンマ県に暮らす 45 歳のシングルマザーであり、4 人の子供を育てるメリエマ・アバ・スラさんは、長年にわたり、主に自家消費用のトウモロコシ栽培に頼って生活していました。しかし、連作障害や土壌の酸性化に伴う収穫量の減少により、生産性と収入は頭打ちになっていました。

そんな彼女の転機となったのは、ジマ農業研究センターの研修を通じて大豆栽培に出会ったことでした。当時は大豆の持つ可能性を理解しつつも、市場へのアクセスが限られていたため、自家消費用に少量を栽培するにとどまっていた。

大きな転換期が訪れたのは 2024 年のことです。ササカワ・アフリカ財団（SAA）エチオピア事務所、グリーン・アグロ・ソリューション（GAS）、ファーム・ラジオ・インターナショナル（FRI）の協働により、AGRA（アフリカ緑の革命のための同盟）の支援を受けた「SoyLink（ソイリンク）パートナーシップ」が立ち上げられました。

このプロジェクトへの参加により、メリエマさんはこれまでの栽培経験をベースにしつつ、気候変動に対応した大豆

の優良品種や、トウモロコシと大豆の輪作といった環境再生型農業、そしてより強固な市場ルートへのアクセスを構築することができました。彼女は、「SCS-1」という大豆の優良品種を選び、折半小作（シェアクロッピング）で確保した土地も含めて、作付面積を 0.375ha まで拡大しました。

夫を亡くし、同じように一人で家庭を支える多くの女性たちが農業規模を縮小せざるを得ない状況の中で、メリエマさんは成功体験を積み重ねていきました。彼女は農業事業を拡大し、模範的な農家となり、他の農家を指導するとともに、女性が適切な支援を受けたときにどれほどの可能性を発揮できるか証明しました。

結果として、メリエマさんは地域の平均収量である 2.72t/ha を上回る 2.94t/ha の収穫量を達成。この収穫により、推定 1,368~1,766 米ドルの収入が得られる見込みです。また、収入増だけでなく、大豆は家族の栄養状態を改善し、今では毎日の食卓に欠かせない食材となっています。

今後、大豆とトウモロコシの輪作による土壌の肥沃度の向上が、トウモロコシの収量増加につながることを、メリエマさんは確信しています。彼女は現在、自身のグループを率いて大豆の種子生産に取り組んでおり、収入機会のさらなる拡大と、地域における種子供給システムの強化に貢献しています。

メリエマさんの経験は、女性が知識、資材、そして市場へのアクセスを手に入れたとき、単なる自給自足を超えて、地域社会における農業変革を牽引する存在になれるということを力強く証明しています。

フィールドデイで大豆栽培の経験をシェアするメリエマさん



技術と学びが切り開いた大豆栽培の道—エチオピア・デジュネさんの挑戦



挑戦と最初の課題

5 年前、デデサ地区チェロ・ケベレに暮らすデジュネ・イメさんは、わずか 0.25ha の小さな畑に大豆を植えました。大豆の栽培経験はなかったものの、地域の農業普及員からのアドバイスを受けて挑戦してみることにしたのです。

しかし、その挑戦はすぐに厳しい現実と直面しました。デジュネさんの地域では当時、大豆は馴染みのない作物でした。そのため、農家も消費者もその栄養価値や経済的なメリットを十分に理解しておらず、市場での需要もほとんどありませんでした。デジュネさんは収穫した大豆の買い手を見つけれないまま、6 ヶ月間も保管し続けることになりました。

最終的に、彼はその大豆を養鶏場にわずか 7.2 米ドルで売却しました。これは、他の作物を育てていれば得られたはずの収入に比べると、ほんのわずかな金額でした。すっかり落胆したデジュネさんは大豆栽培をあきらめ、彼と同じように大豆への信頼を失った多くの農家たちの仲間入りをしてしまいました。

新たなプロジェクトと、もう一つの転機

大きな転換期となったのは、SAA とパートナー団体が実施する、AGRA（アフリカ緑の革命のための同盟）支援の「SoyLink（ソイリンク）プロジェクト」でした。このイニシアチブを通じて、デジュネさんは土壌管理や改善された栽培技術、そして市場のニーズを意識した生産方法についての研修を受けました。

このプロジェクトはさらに、かつて農家たちの努力を阻んでいた「販路がない」という最大の課題に直接アプローチし、農家と信頼できる市場をしっかりと結びつけました。これにより、デジュネさんは単に大豆を生産するだけでな

く、積極的に学び、知識を共有し、市場と関わる意欲を取り戻したのです。

ピア・ラーニングによるリーダーシップの発揮

デジュネさんは、自身の農場経営に取り組むだけでなく、農家同士が学び合う活動を通じて、地域の農家への助言も行っています。適期の除草や作物管理、持続可能な農法について実践的な知識を共有し、そのリーダーシップは、農家グループ内の連携強化と知識共有の促進に大きく貢献しています。

その成果は目に見える形で現れています。地域の農作物の生産性が向上し、農家の収入の機会が広がり、農家たちは大豆生産に対する自信をますます高めています。デジュネさんは、約 1.76 トン/ha の収量の向上により、811 米ドルから 1,046 米ドルの収入を見込んでいます。

損失に直面した日々から、地域を引っ張るリーダーへと成長を遂げたデジュネさんの歩みは、技術研修、市場へのアクセス、および農家同士の学び合いというサポートが揃ったときに何が可能になるかを証明しています。これは、農業が「不確実なもの」から「チャンス（機会）」へと変わる強力な実例であり、生産性の向上、生計の改善、そして地域社会の回復力（レジリエンス）強化を目指す SAA のミッションを体現しています。

若者たちがもたらす変化：市場へのアクセスの拡大と雇用創出に取り組むエチオピアの農業資材販売業者たちの挑戦



農村部の農家が直面する課題

エチオピアの農村部に住む多くの小規模農家にとって、農業は単なる生計を立てる手段ではなく、世代を超えて受け継がれてきた命綱です。しかし今日、高品質な農業資材（種子や肥料など）や普及サービス（技術指導）へのアクセスが限られていることから、この命綱はますます危機に

瀕しています。多くの農家は、不安全な農薬に頼らざるを得ず、資金不足や将来への不安を抱えながら、雑草や病害虫の被害に自力で対処しなければならない状況にあります。

こうした課題は農業の現場だけにとどまりません。農村部の若者たちは、土地不足や資金調達の難しさに直面しており、それに伴う失業率の上昇が、彼らの将来への不安をさらに大きくしています。

SAA の支援活動と能力開発

日本財団の支援を受けて、SAA エチオピア事務所は 2021 年、「農業資材販売業者（アグロディーラー）支援事業」を開始しました。これは、種子、農薬、個人用保護具（PPE）、収穫後処理資材、噴霧器、農具といった農業資材を、農家が必要な品質・数量・時期に、手頃な価格で入手できるようにすることを目的としています。

SAA は、オロミア州（アナソラ郡、ネグレアルシ郡）、アムハラ州（メケット郡、ケウェト郡）、中央エチオピア州（アンガチャ郡）に、若者が主導する農業資材店を 6 社設立しました。これにより、16 人の若者に雇用を創出。これは、1 店舗あたり 3 人の雇用を創出するという目標に対し、89%の達成率を記録しました。アグロディーラーとなった若者たちは、起業家精神、経営管理、資材の取り扱い、記録管理、そして顧客サービスに関する研修を受けました。

店舗の立ち上げと運営を支援するため、SAA は総額 38,644 米ドル相当の農業資材を共同支出し、そのうち 45%はバイエル社が拠出しました。また、若手アグロディーラーたちは、ドヨ・ゲナにある「ゼレタ・カンバタ・ワンストップ・ショップセンター」や、首都アディスアベバの農業資材輸入業者や販売業者を視察し、実践的な知見を深めました。

主な成果と地域社会への影響

2022 年までに、若者が運営するアグロディーラーは、39,468 人（うち 26%が女性）の農家にサービスを提供し、216,360.69 米ドルの収益を上げました。また、農業資材の販売に加え、噴霧作業サービスの提供も行ようになりました。さらに、より多くの農家にアプローチするために新規店舗を開設したほか、新しく設立されたディーラーへの経営アドバイスなども行っています。彼らの存在により、品質な農業資材へのアクセスが改善され、農村の農家まで届く配送体制が強化されました。

市場連携フォーラムでは、SAA が支援する各種グループ（SHEP、パーマガーデン、種子増産、農業普及員、農家学習生産クラスターなど）や、地域農家が、SAA のプロジェクトの効果を実際に確認しました。参加者からは、この「ラストマイル・アクセス」の強化により、高品質な種子が手頃な価格で、必要な時に必要な量だけ手に入るようになったという声が寄せられています。

今後の展望：持続的な成長に向けて

現在、これらの若者主導のアグロディーラーは、農家への農業資材や農業技術サービスへのアクセス改善に貢献しながら、安定した収入を生み出す自立した事業体へと成長しています。また、農業普及員と緊密に連携し、単なる資材販売にとどまらず、農家への情報提供や支援活動にも役割を広がっています。農家へのアウトリーチ活動をサポートし、資材ニーズの把握を助けるほか、病害虫の発生状況のモニタリングにも貢献しています。こうした取り組みにより、地域のニーズに応じたサービス提供が可能となっています。

今後の展望として、これらアグロディーラーは卸売事業への規模拡大を目指しています。これを実現するためには、融資へのアクセス改善や信用保証制度の整備が不可欠であり、これらは若者主導のアグリビジネスを拡大し、農村経済を強化するための重要な鍵となります。

3. 活動報告

SAA エチオピア、主要な農業プラットフォームとの連携強化

SAA エチオピア事務所は、パートナーシップの強化と農業改革の推進、現場での活動を通じて、農業変革へ貢献し続けています。

近年、アフリカ緑の革命同盟（AGRA）、オランダ開発機構（SNV）、国際食糧政策研究所（IFPRI）をはじめとするさまざまな機関との連携を推進しています。こうした協働を通じて、農業分野における資源動員を進め、共同イニシアチブを推進しています。

また、環境再生型農業戦略や多元的農業普及政策の策定を含む国家レベルのプロセスにも貢献し、現場での経験が政策の方向性に反映されるよう努めています。こうした政策を決める会合には、政策立案者、開発パートナー、民間セクターの関係者が一堂に会し、農業変革の推進に取り組んでいます。

EIAR とベルン大学が共催した全国シンポジウムでの集合写真



これらの会合を通じて、SAA は環境再生型農業、市場志向型農業、そして農家中心の農業改革に関する取り組みを紹介しました。さらに、小規模農家への支援を強化するため、種子システムの改善や市場との連携強化、「ラストマイル」における農家へのサービス提供体制の向上に向けた関係者との対話も進めました。

各種イベントにおいて、SAA は環境再生型農業、市場志向型農業普及、農家中心のイノベーションに関する取り組みを紹介しました。さらに、小規模農家への支援を強化するため、種子システムの改善や市場との連携強化、「ラストマイル」における農家へのサービス提供体制の向上に向けた関係者との対話も進めました。

こうした取り組みを通じて、SAA は、イノベーション、パートナーシップ、現場での実践をつなぐ役割を果たし、農業分野の解決策を小規模農家の具体的な成果へと結びつけていきます。

土壌再生から市場機会の創出へ：農家クラスターで広がる環境再生型農業



SAA エチオピア事務所は、食料と土地利用の変革に取り組む連合体 Food and Land Use Coalition (FOLU) からの資金提供を受け、2025 年 5 月から 2026 年 1 月にかけて、アナソラ郡とネゲレアルシ郡において、農家学習生産クラスターを通じた、持続可能かつ環境再生型農業に基づく商業化プロジェクトのパイロット事業を実施しました。

本プロジェクトでは、農家グループ（クラスター）を組織し、農家の能力強化、生産資材へのアクセス改善、環境再生型農業の推進、収穫後管理の向上、市場アクセスの強化に取り組みました。これらの包括的な支援を通じて、農作物の生産性向上と農業経営のレジリエンス強化を図り、小規模農家が市場志向型の農業経営へ移行するための機会創出を目指しました。

合計 359 名の農家（うち女性 38%）が、135ha にわたる農家学習生産クラスターに組織されました。これは、2024 年の参加農家数および作付面積（74ha）から、それぞれ 2 倍以上に拡大したものです。

クラスター内では、農家が有機資材の活用、輪作、不耕起・減耕起などの主要な環境再生型農業の実践を導入しました。これらの取り組みにより、土壌の健全性の回復、小麦・大麦と豆類を組み合わせた季節的輪作による農業生物多様性の向上、そして持続可能な生産の推進につながっています。

また、本プロジェクトでは、フィールドデー、相互視察、市場連携フォーラム、環境再生型農業ワークショップなどを通じて、農家と関係者が相互に学びあうプラットフォームを創出しました。これらの取り組みによって、農家、農

業普及員、開発パートナー間の知識の共有と連携が強化されました。

直接参加した農家に加え、本プロジェクトは 30,288 人（うち女性 31%）に支援の裨益を広げ、生産性の向上、気候変動等への対応力の強化、環境再生農業に関する地域の能力向上に貢献しました。

このパイロット事業は、環境再生型農業が、政府が推進するクラスター型生産システムにおいて、実用的かつ拡大展開可能な形で効率的に組み込めることを示しました。さらに、環境再生型農業と農業の商業化は両立可能であるということも明らかになりました。適切な支援のもとでクラスター型アプローチを組み合わせることで、両者は互いに補完し合い、土壌の健全性とレジリエンスを強化し、小規模農家のより良い市場機械の創出につながります。

この取り組みの経験は、持続的な規模拡大を実現するためには、強固な地域ガバナンス、連携の取れた農業普及サービス、そして金融へのアクセスが重要であることを示しています。

小さな農地から広がる大きな変化：エチオピア農村で進むパーマガーデニングによる生計と栄養の改善

エチオピア・アナソラ、ネグレアルシ、アンガチャ郡では、多くの農家世帯が不安定な農業環境の中で暮らしていました。しかし現在では、ササカワ・アフリカ財団（SAA）エチオピア事務所が推進するパーマガーデニング（持続可能な家庭菜園）を通じて、わずか 92 m²ほどの裏庭の小さな農園でも、農家の暮らしを変える取り組みが広がっています。

家庭の小さな取り組みとして始まったものが、今では各家庭の生産性、栄養改善、収入向上を支える実践的な解決策へと発展しています。

農家たちは、パーマガーデンの研修を通じて、雨水の管理、有機物による土壌の肥沃化、家庭ごみの堆肥化など、限られた資源をより有効に活用する方法を学びました。作物の多様化を図り、栄養価の高い食品の生産量を増やすことで、食生活の質を高めるとともに、地域社会のレジリエンス向上にも貢献しています。

その成果は大きなものとなっています。参加農家の 97%以上が知識を向上させ、92%が有機肥料を導入しました。また、生産コストは 3.1 米ドルから 1.28 米ドルへと、半分以上削減されました。2024 年には、農家は高付加価値農産物 72kg を、1kg あたり平均 0.41 米ドルで販売し、平均 14 米ドルの利益を得ることができました。また、約 76%の農家が市場へのアクセスを獲得し、小規模な生産活動を安定した収入源へと発展させています。

パーマカルチャーの導入は、所得の増加だけでなく、各家庭の栄養状態も改善しました。食事の多様性が高い世帯の割合は、55%から 71%へ増加し、食料消費が不十分な世帯の割合は 19%から 8%へと低下しました、これは、食料消費スコア（Food Consumption Score）の改善にも表れています。

現在、農家の 95%が多様な食生活の重要性を認識しており、その知識を日常生活に活かしています。

パーマガーデニングの取り組みは、家庭内の力関係の変化にも影響を与えています。意思決定における女性の参加が増え、60%の世帯がパーマガーデニングに関する事項は「夫婦で共同で決定している」と回答しています。特に女性の自身が向上し、収入の使途や生産に関する選択において、より大きな役割を果たすようになっています。

参加者の 99%が今後も取り組みを継続する意向を示しており、パーマガーデニングは、わずかな空間であっても収入向上、栄養改善、レジリエンス強化につながることを示しています。小さな取り組みから、より安定した生計の実現に向けた、シンプルでありながら大きな可能性を持つ道筋が生まれています。

自宅裏のパーマガーデン



4. ニュース／イベント

アムハラ州で「RE-GAIN」プロジェクト始動：収穫後ロスの削減と穀物バリューチェーンの強化へ



AGRA の資金提供を受ける「RE-GAIN」プロジェクトがエチオピア・バハルダールで正式に発足しました。これは、エチオピアにおける収穫後ロスの削減と、穀物バリューチェーンの強化に向けた、極めて重要な具体的ステップの始まりとなります。

本プロジェクトは、2025 年 12 月 25 日に締結された合意に基づき始動しました。事業の推進にあたっては、SAA（ササカワ・アフリカ財団）エチオピア、アムハラ州の財務局および農業局、民間サービスの Lersha（レルシャ）、国際農業ラジオ（FRI）からなる強力なコンソーシアム（共同体）が結成され、各組織が緊密に連携していきます。

本プロジェクトは現在、テフおよび小麦の収穫後ロス削減に取り組んでいます。30%とも推定されるこれらの農作物の収穫後ロスを減らすため、農業改革の推進、システムの改善、資金調達へのアクセス強化を実施しています。

2020 年～2029 年のプロジェクト期間中、東ゴジャムおよび北シェワの 30 地区において、179,540 人の農家（半数が女性）に加え、協同組合や中小企業を支援します。

キックオフイベントでは、関係者が連携、技術革新、そしてレジリエンスの重要性を強調しました。SAA エチオピアは関係機関との連携を一層強化し、包摂的でレジリエンスの高い農業開発の推進に取り組んでいきます。式典の最後には、覚書

が締結され、パートナーシップが正式に発足しました。

AFSTA 2026 に参加、アフリカの種子システム強化とラストマイルの課題を発信

2026 年 3 月 23 日～25 日、ササカワ・アフリカ財団（SAA）は、南アフリカのケープタウンで開催された第 26 回アフリカ種子貿易協会（AFSTA）総会に参加しました。今年のテーマは、「一粒の種からアフリカの未来を切り拓く（Empowering Africa's Future, One Seed at a Time）」です。

この総会には、種子企業、政策立案者、研究者、開発パートナーなど、40 カ国以上から 500 名を超える参加者が集まりました。会議では、アフリカにおける農業変革、食料安全保障、および農家の生計向上を推進する上で、強固な種子システムが果たす重要性が改めて確認されました。

SAA は、種子バリューチェーンの主要な関係者と意見交換し、展示ブースを出展し、良質な種子へのアクセスの改善、能力強化、市場志向かつ栄養に配慮した農業の取り組みを紹介しました。

SAA は特に、改良種子を小規模農家へ確実に届けるためのラストマイル・デリバリーの仕組みを強化する必要性を提言しました。また、種子システムを政策の調和、気候変動に強い品種の普及、信頼性の高い種子認証制度と結び付けて捉えるフードシステム・アプローチの重要性についても発信しました。

今回の総会での議論を通じて、SAA は、種子分野における変革がアフリカの小規模農家に確かな利益をもたらすよう、今後も関係機関との連携を強化していく姿勢を改めて示しました。

